

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

当圏域は、網走市及び小清水町に位置し、漁業にあつては、水産資源に恵まれたオホーツク海を漁場とし、農業や漁業を中心とした一次産業や、雄大な自然を観光資源とした観光業が盛んである。

圏域内には、網走漁業協同組合及び西網走漁業協同組合があり、第1種漁港2港(鱒浦漁港・呼人漁港)、第4種漁港1港(能取漁港)の計3漁港、港湾1港(網走港湾)により漁業活動が展開されている。両漁協ともホタテガイ等の主要な漁獲物の水揚げが堅調であり、漁協経営も好調なため合併の動きは無い。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

当圏域ではオホーツク海や能取湖を漁場としたほたてがい漁業やさけ定置漁業が盛んであり、これら漁業種類で圏域全体の水揚量の約6割を誇る。

主要魚種はホタテガイ及びサケであり、令和元年の港勢調査等によると、ホタテガイ(稚貝養殖を含む)は漁獲量が28,212トン、金額が58億円、サケは漁獲量が5,345トン、金額が30億円となっている。

ホタテガイは地まき養殖により資源造成がなされ、平成26-27年に低気圧による漁場被害も受けたものの、漁場の回復に伴い現在では漁獲量が増加傾向にある。また、サケ・マスについては人工種苗放流による資源造成が行われ、漁獲水準の維持に努めている。

③ 水産物の流通・加工の状況

圏域内で水揚げされた漁獲物は網走港に併設された産地市場や、能取漁港・呼人漁港背後の荷さばき施設に集約され、特にサケやホタテガイについては圏域内の民間水産加工場や仲買人等を通じて国内外へ流通している。

④ 養殖業の状況

ホタテガイについては天然幼生を採取して中間育成した稚貝を前浜に放流し、その3年後に成貝を漁獲する地まき養殖の生産体制が確立されている。

サケ・マスについては毎年、秋に回帰した親魚で人工授精を行い、翌春に放流し、その後、回帰した成魚を漁獲する資源造成の体制が確立されている。

また、近年は、湖内環境の変化により資源が減少しているヤマトシジミの資源増大

⑤ 漁業経営体、漁業就業者(組合員等)の状況

圏域内の漁業経営体数は 337 経営体、組合員は 337 名となっている。

近年の組合員数は横ばいであり、水揚げも堅調であることから、今後とも同様の傾向が継続することが見込まれる。

⑥ 水産業の発展のための取組

主要魚種であるホタテガイ及びサケ・マス類については、安定的な漁獲を図るため、地域漁業者により種苗生産と放流が行われている。

また、主要漁獲物であるホタテガイやサケについては、天蓋施設などの衛生管理施設を設けたハード対策と、港内における衛生管理のルール設定などソフト対策の取組によって、海外の衛生管理基準を満たす製品づくりの体制が構築されている。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

能取漁港では、外海と繋がる能取湖口にアイスブームを設置し、湖内のホタテガイの養殖施設を冬期間における流氷被害から防護しているところであるが、アイスブームの本体ロープ等が経年的に劣化して定期的な交換・点検が必要なことから継続的な機能保全対策が必要であるほか、既存施設の老朽化に伴う機能保全や、航路・泊地の適正水深の確保が課題となっている。

鱒浦漁港、呼人漁港では、外郭施設など既存施設の老朽化に伴う機能保全が課題となっている。

網走港湾では、水産物の陸揚げから流通過程まで一貫した衛生管理を行うため、産地市場や製氷施設等が設けられているが、より徹底した衛生管理を図る上でこれら施設の機能強化が課題となっている。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

当圏域では、集出荷機能を網走港湾や能取漁港に集約するなど各漁港・港湾機能の役割に合わせた集約化が進められているが、将来的な漁業形態の変化に合わせ対応する。

(2) 圏域設定の考え方		
① 圏域タイプ	流通拠点型	<p>設定理由；</p> <p>地圏域で水揚げされた漁獲物は、網走港湾の産地市場や能取漁港の荷さばき施設で集荷された後、消費地や加工場へ出荷されているため。</p>
② 圏域範囲	網走市	<p>設定理由；</p> <p>圏域内の水産物が集約される網走市の流通拠点港湾・漁港（網走港・能取漁港）の集荷範囲としたため。</p>
③ 流通拠点漁港	能取漁港	<p>設定理由；</p> <p>漁港背後に圏域内の水産物が集約される荷さばき施設や、市内に水産加工団地が立地するとともに、災害発生時には事業継続計画（BCP）に従い当該漁港を拠点に漁業活動が早期に再開できる態勢が構築されているため。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 属地陸揚量：3,910t（R1） 属地陸揚金額：12 億円（R1）
④ 生産拠点漁港	<p>呼人漁港</p> <p>鱒浦漁港</p>	<p>設定理由；</p> <p>属地陸揚げ金額が約 6 億円であり、しじみがい漁業やわかさぎ漁業において中核的な役割を担うほか、荒天時には近隣漁船の避難場所として機能するため。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 属地陸揚量：747t（R1） 属地陸揚金額：6 億円（R1） <p>属地陸揚げ金額が約 5 億円であり、小定網漁業やほたてがい養殖漁業において陸揚げや日常的な漁具のメンテナンスといった漁労活動の拠点となるなど中核的な役割を果たすほか、荒天時には近隣漁船の避難場所として機能するため。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 属地陸揚量：668t（R1）

		属地陸揚金額：5億円（R1）
⑤ 輸出拠点漁港	能取漁港	設定理由； 輸出対象魚種であるホタテガイの陸揚拠点となっているため。

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	59,702	圏域の登録漁船隻数(隻)	393
圏域の総漁港数	3	圏域内での輸出取扱量(トン)	2,470
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	1		

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	網走・西網走地域
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	ホタテガイ
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量(収穫量)(トン)	ホタテガイ(地まき) 21,231 ホタテガイ(養殖) 6,981
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	ホタテガイ(地まき) 3,5771 ホタテガイ(養殖) 2,174

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

・ 輸出促進への対応

輸出先国の衛生基準等ニーズに対応した製品を生産し、輸出を促進するため、衛生管理された高品質な水産物の流通増大と鮮度保持対策を進める必要がある。

② 養殖生産拠点の形成

能取湖内は、圏域内外で養殖用種苗として利用されるホタテガイ稚貝の養殖生産基地として機能しており、この養殖施設を流氷から守るための施設整備を行う必要がある。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

海洋環境の変化等により主要魚種の漁獲水準が低下傾向にあるなどの課題が顕在化しており、持続可能な漁業生産を確保するため、漁港施設用地を活用した陸上畜養・増養殖や、漁港区域内の海面を活用した畜養・増養殖といった地元の取り組みと連携した漁港整備を推進する。

②災害リスクへの対応力強化

- ・持続可能なインフラ管理の推進

予防保全を含めた持続可能なインフラ対策を講ずるため、ドローンなどの新技術を導入した施設の機能診断を迅速かつ効率的に行うとともに、防氷堤や外郭施設など老朽化した施設の機能保全のほか、航路・泊地の適切な水深を確保するため浚渫を行う必要がある。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

- ・地域活性化の取組との連携

能取漁港では、静穏な湖内環境を活かして海洋性スポーツの振興のためボートヤード施設が開放されているほか、背後にキャンプ場が設けられ、これら施設と連携した漁港整備の展開により、漁業活動に支障の無い範囲で地域の活性化を目指す。

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

- ・就労環境の改善

当圏域では、漁獲物の選別作業や、ホタテガイ稚貝養殖に伴う集出荷や稚貝分散作業の際に女性など多様な担い手が従事しており、衛生管理施設（天蓋施設）の副次的な効果としてこれら担い手に対する就労環境の改善されることから、当該施設の施設整備や機能保全を図る。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点

② 養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名

② 災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
網走管内	予防保全	直轄	能取	4	○
網走	予防保全	機能保全	鱒浦	1	

・ 予防保全

能取湖口に設置された防水堤や外郭施設など老朽化した施設の機能保全のほか、航路・泊地の適切な水深を確保するため浚渫を行う。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点

4. 環境への配慮事項

漁港整備にあたっては、懸濁物の流出防止やサケ稚魚の降海時期に配慮して施工するものとする。

また、環境負荷の削減を目指し、再生可能エネルギーの導入や、施工時におけるリサイクル材の利用について検討する。

5. 水産物流通圏域図

別添のとおり

北海道オホーツク総合振興局水産物流通圏域図

網走西部第2圏域
流通拠点(一般)型
 流通拠点: 雄武漁港(2)
 圏域総陸揚量: 23,381 t
 圏域総陸揚金額: 53 億円
 漁港4港、港湾0港
 <機能集約>特になし
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 18,724 t
 圏域海面養殖業総産出額: 33 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)

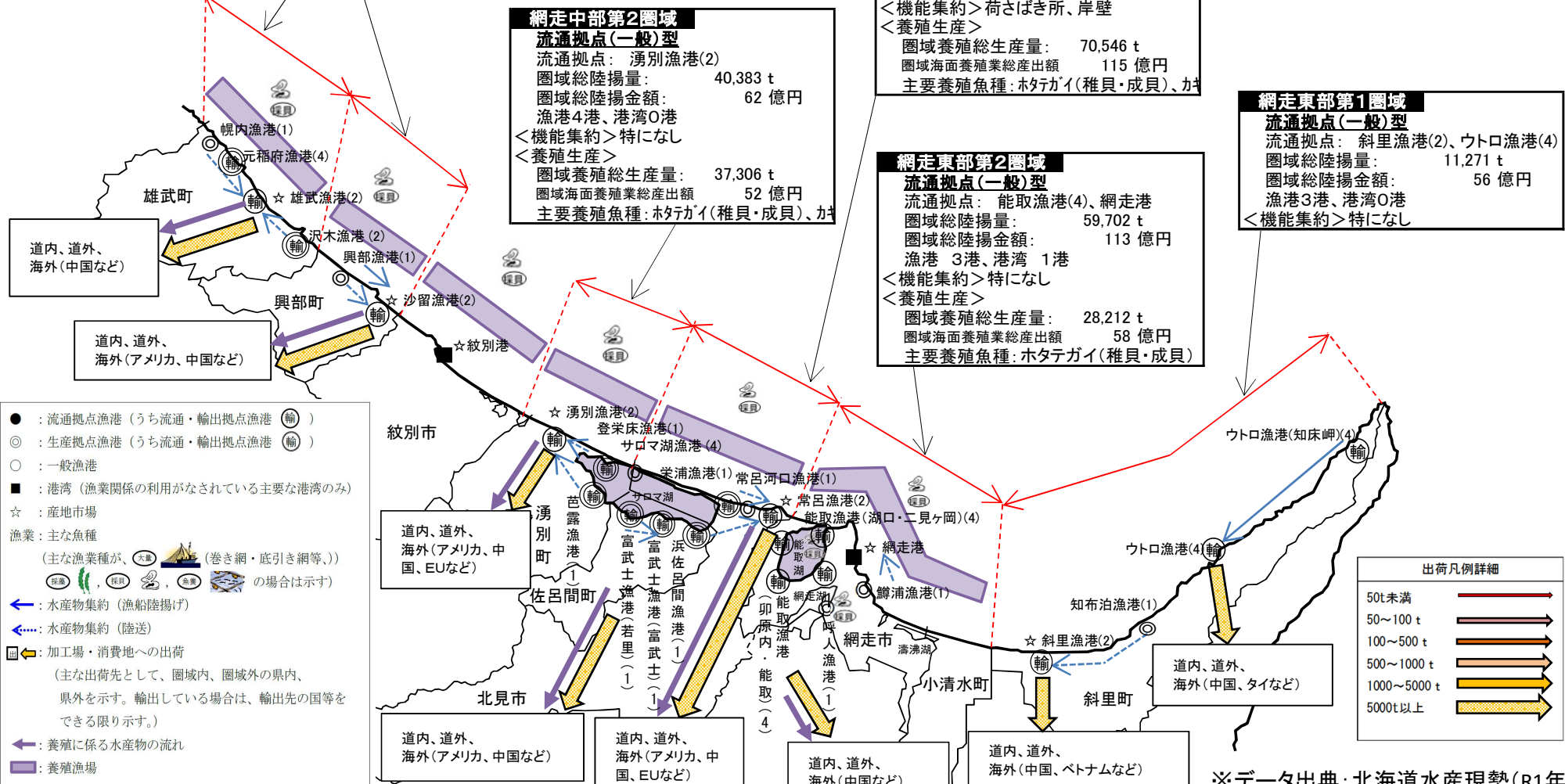
網走西部第1圏域
流通拠点(一般)型
 流通拠点: 沙留漁港(2)
 圏域総陸揚量: 20,096 t
 圏域総陸揚金額: 36 億円
 漁港2港、港湾0港
 <機能集約>特になし
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 16,443 t
 圏域海面養殖業総産出額: 23 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)

網走中部第2圏域
流通拠点(一般)型
 流通拠点: 湧別漁港(2)
 圏域総陸揚量: 40,383 t
 圏域総陸揚金額: 62 億円
 漁港4港、港湾0港
 <機能集約>特になし
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 37,306 t
 圏域海面養殖業総産出額: 52 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)、カキ

網走中部第1圏域
流通拠点(一般)型
 流通拠点: 常呂漁港(2)
 圏域総陸揚量: 75,384 t
 圏域総陸揚金額: 135 億円
 漁港6港、港湾0港
 <機能集約>荷さばき所、岸壁
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 70,546 t
 圏域海面養殖業総産出額: 115 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)、カキ

網走東部第1圏域
流通拠点(一般)型
 流通拠点: 斜里漁港(2)、ウトロ漁港(4)
 圏域総陸揚量: 11,271 t
 圏域総陸揚金額: 56 億円
 漁港3港、港湾0港
 <機能集約>特になし

網走東部第2圏域
流通拠点(一般)型
 流通拠点: 能取漁港(4)、網走港
 圏域総陸揚量: 59,702 t
 圏域総陸揚金額: 113 億円
 漁港3港、港湾1港
 <機能集約>特になし
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 28,212 t
 圏域海面養殖業総産出額: 58 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)



- : 流通拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港)
- ◎ : 生産拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港)
- : 一般漁港
- : 港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)
- ☆ : 産地市場
- 漁業: 主な魚種 (主な魚種が、(巻き網・底引き網等。)) (稚貝、成貝、カキ、魚類) の場合は示す)
- ← : 水産物集約 (漁船陸揚げ)
- ← : 水産物集約 (陸送)
- : 加工場・消費地への出荷 (主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、県外を示す。輸出している場合は、輸出先の国等ができる限り示す。)
- ← : 養殖に係る水産物の流れ
- : 養殖漁場

出荷凡例詳細

50t未満	細い赤い矢印
50~100 t	細いオレンジ色矢印
100~500 t	細い黄色矢印
500~1000 t	細いオレンジ色矢印
1000~5000 t	細い黄色矢印
5000t以上	太い黄色矢印

※データ出典: 北海道水産現勢(R1年)